



国際会議 海外派遣・留学 主要外国人の来訪 国際協力 余剰兵器解体プルトニウム処分協力

1. 国際会議

1.1 国内

期 間	開 催 場 所	会 議 名 及 び 内 容
2004年 10月13～14日 25～27日	敦 賀 東 海	マイナーアクチニド照射に係る日仏米会合
12月1～2日	敦 賀	国際原子力機関(IAEA)国際会議「各国の高速炉開発ともんじゅ」
12月8～9日	敦 賀	JNC/フランス原子力庁(CEA)先進技術協定に基づく調整会合

1.2 国外

期 間	開 催 場 所	会 議 名
2004年10月18～20日	英 国 セ ラ フィールド	JNC/英国原子燃料会社(BNFL)湿式分離技術に関する情報交換会合
10月18～22日	仏 国 グ ル ノーブル	JNC/独国カールスルーエ研究所(FZK)/CEA/仏国原子力安全・放射線防護総局(IRSN)高速炉の安全解析コードに係るレビュー会合
12月11～14日	カザフスタン共和国 ク ル チャトフ	JNC/カザフスタン共和国国立原子力センター(NNC)EAGLプロジェクトに係る技術会合

2. 海外派遣・留学

期 間	派 遣 ・ 留 学 先	目 的
2004年10月～2005年10月	米国 ニューブランズウィック研究所	プルトニウム標準物質及びスパイク標準資料の調整に関する研究
2004年12月～2006年5月	仏国CEAサクレー研究所	次世代炉物理解析システムの開発

3. 主要外国人の来訪

訪 問 日	訪 問 場 所	訪 問 者
2004年10月13日	東 海	英国保健安全執行部首席原子力検査官兼原子力安全局長等
10月25日	東 京	OECD/NEA事務局長等
11月11日	東 京	英国BNFL社長等
11月16日	大 洗	国際科学技術センター(ISTC)次長等
11月29日	敦 賀	中国国際協力局アジア・アフリカ担当局長等
12月4日	敦 賀	仏国原子力安全・放射線防護総局(IRSN)局長等
12月7日	東京/敦賀	仏国CEA原子力開発局長

4．国際協力協定

4.1 文部科学省原子力研究交流制度に基づく協力
研究者受入れ計画14名中の1名を受入れ、全員の受入れを実施した。

同制度に基づく講師の派遣計画、合計6テーマについて、5テーマを関係国へ派遣実施した。

4.2 国際特別研究員制度に基づく研究者招へい

同制度による研究員は現在、合計7名が在籍（東海3名及び敦賀、本社、大洗、瑞浪の各1名）している。

研究報告会（9月開催）の報告書の取りまとめを実施した。

2005年度の研究者の募集及び在籍研究員の延長調査を実施した。

5．余剰兵器解体プルトニウム（解体プル）処分協力

5.1 日露共同研究

① ロシア解体プルトニウムを高速炉BN-600¹⁾で燃焼処分する3体デモ照射は、ロシア原子炉科学研究所（RIAR）との共同研究契約に基づき実施中である。現在、照射後試験として燃料ピンの非破壊試験（燃焼度測定、残留ガス分析）を実施終了し、最終報告書の入手のための手続を進めている。

② BN-600安全解析は、ロシア物理エネルギー研究所（IPPE²⁾）とのBN-600のハイブリッド炉心化に際しての安全性についての共同研究を終了し、国内での評価報告書を作成している。

③ RIAR施設整備は、RIARとの共同研究契約に基づき、BN-600ハイブリッド炉心へ燃料供給す

る設備増強のための改造を実施している。先方の工程の都合から、12月1日付けで変更契約して、契約納期を8月末に延期した。

5.2 21体デモ処分²⁾

① 21体デモ処分は、解体プルトニウムを振動充填法によりMOXパイバック燃料集合体（21体）とし、高速炉BN-600で燃焼処分するRIAR（株）ペスコとの共同研究に基づき実施中である。11月1～4日にRIARにて第2回のレビュー会合を開催し、12月に納入予定の技術報告書の内容確認・コメント、燃料検査の方法についての検討、PIE計画について調整した。11月22～25日にRIARにて製造済みあるいは製造中の燃料について検査を実施した。

5.3 海外の動向調査

① 露・仏・米国担当者との意見交換を通じて、日露の共同研究の状況について紹介するとともに、先方の取組状況について把握した。

② 米露間で検討中の核兵器解体に伴って発生するプルトニウム処分に関する米露の取組み及びその他の国際動向について、情報収集の契約に基づき、公開資料、米国行政担当者等へのインタビューを通じ、調査を行っている。

1) BN-600：Buistrui Neutron (Fast Neutron)600 ロシアの高速原型炉

2) パイバックMOX燃料集合体の製造及び照射に係る共同研究

（本社：国際・核物質管理部）